

# 違っただままでつなげられる 東京で「いのり☆フェスティバル」

キリスト教の関係者が教派や企業、学校などの「枠組み」を越えて一堂に会し、つながること、普遍的な「祈り」の精神を世に対して発信し、後世にも継承していきたい。そんなビジョンを抱いた有志数人が10月22日、東京都港区の産業貿易センターにおいて「いのり☆フェスティバル2011」を開催した。

会場には、キリスト教出版社、イラストレーター、学生伝道団体など20のブースが設けられ、クリスチャン音楽家のライブ＆



会場のあちこちで新しいつながりが生まれていた

刊「Ministry」編集長）ら有志。主催したのは松谷信司氏（季

例年行われているキリスト教書店、出版社向けの「クリスマス見本市」の拡大版を目指し、クリスチャンも未信者も来やすいイベントを企画した。チラシは1万部刷り、日本基督教団を中心に配布したというが、人出は初回ということもあってか少人数にとどまった。

GKの働きを振り返りつつ、献身者と献金で運営される組織における「マネジメント」について語った。特に、自身が事務局長に就任した1990年代前半以降のK GK内の組織改革について詳しく語り、教会や宣教団体の運営に関して一定の方向性を示した。（次頁に詳細）

水谷潔氏は、創世記2章24節から、結婚は①父母を離れ（自立）②結ばれ（結婚）③一体となる（性生活）のプロセスが重要だと語り、結婚するにあたって自分は親から自立しているか、また相手は両親から自立しているかを見極める必要があると強調した。

「夫は、母親と妻の間でスイス（永世中立国）をしてはいけません。すでに自立しているの

山崎龍一氏は、60年続いたK

せん。」

クリスチャンの臨床心理士の藤掛明氏は、まず参加者に『雨の中の私』を心に描いてください」と勧めた。一人ひとりが心や紙に描き終わったところで、雨の強さはその人が受けているストレスの強さを示し、雨をどう避けているか（あるいは避けていないか）はその人のストレス対処方法を示す、と解説。会場からは、分析が当たっていたのか、何度も笑いがこぼれた。ストレスについては、「あってもいいもので、無いとおかしい。ストレスを避けるのではなく、どう対処するかを考えること。」と述べ、ストレス発散のためには「気晴らし行動」の重要性を強調。気晴らし行動は多ければ多いほど良く、一見「しょうもないこと」ほど価値があると語った。

展示会場では、愛知県出版社と関東在住のイラストレーターが初めて出会ったり、K GKの山崎総主事の話がとて

（本誌・谷口和一郎）